



安全安心の日の集い2019が開催されました

セーフコミュニティ（SC）推進協議会は5月24日に「箕輪町安全安心の日の集い2019」が町文化センターで開催されました。町がSCの国際認証を取得した5月12日を「安全安心の日」として宣言し、SC活動の推進を期する日として毎年開催しています。当日は町内外から約200人の参加があり、SCについて考える機会となりました。

箕輪町地区SC推進協議会連絡会が『功労賞』受賞

今年の集いでは、町及び町内6地区（設立順に北小河内、八乙女、福与、中原、長岡、大出）のSC組織から成る箕輪町地区SC推進協議会連絡会が日本セーフコミュニティ推進機構から『功労賞』を受賞しました。各地区の特色あるSC活動と、SCの推進・発展に大きく貢献したことが高く評価されました。同推進機構の白石代表理事からは「箕輪町の地域を思う力・継続する力はどこにも負けない。その取り組みは他の自治体へ時間的にも空間的にも広がり大きな役割を担っている。今後の取り組みにも期待したい」との祝辞を賜りました。



6地区を代表して福与区SC協議会会長が表彰を受けました。



「功労賞」表彰状

片田特任教授による講演会

岩手県釜石市で津波防災教育に長く取り組まれ、東日本大震災で多くの小中学生が迅速に非難し、生存率99.8%という「釜石の奇跡」を生んだ、東京大学大学院情報学環 特任教授 片田敏孝氏を講師に『荒ぶる自然災害に地域一体で向かい合う ～災害犠牲者ゼロの箕輪町を目指して～』と題してご講演いただきました。

片田教授には以前にも防災の講演をいただいておりますが、2回目となる今回は、「行政主導の防災」から「住民主体の防災」への転換や避難勧告が出されても避難できない人の心についてお話いただきました。中でも強調されたのは、「過去の経験から箕輪町は災害が少ないという考えは捨てるべき」、「安全に対する他者依存（過剰な行政依存）は最もいけない」とのことで、命が助かった

現場を見ると、『人と人とのつながり』、コミュニティの存在が大きく、主体的に自分たちのできることを一杯やりぬいていたとのことでした。住民が過度に行政に依存せず、『自らの命は自ら守る』主体性を持ち、行政は全力でサポートし、地域住民と行政が一体となって災害に向かい合うことで災害に強いまちづくりにつながると訴えられました。



当日の様子や講演要旨、配布資料は町ホームページにも掲載しています。



町HP